

違った面白さがありました。

最後まで勝ち残った社員には、アマゾンのギフト券をプレゼント。在宅スタッフの中にも勝者がいたので、後日郵送しました。手渡しで受け取るのもうれしいと思いますが、郵送でもらうと懸賞に当たったような喜び(?)があったのではないのでしょうか。

テレワークや納会も、実際に行ってみると「工夫次第」であると感じます。対面でのコミュニケーションを基本にすると「会って話さないと分からない」「オンラインだと人柄が分からず冷たく感じる」など、マイナスのイメージが先行しがちです。しかし、オンラインでのコミュニケーションを経験するにつれ、直接会わなくてもスムーズに会話を交わし、感情的な部分も共有できるようになるのかもしれ

れません。

これまでのテレワークが「効率化」がメインだとすると、これからのテレワークは業務で利用することが当然の「インフラ」になってゆくのではないのでしょうか。そしてなかなか対面できない状況の中で、実際に会ってコミュニケーションをとることのありがたみや、重要度も増してゆくと思います。今後、テレワークが主流になるということでは決してなく、対面でのコミュニケーションと共存することで、ビジネスもプライベートも充実したものとなることを期待したいです。(税理士・行政書士・社会保険労務士 赤崎 章吉)

赤崎氏の事務所 HP はコチラから→→



える
カフェ

コロナ禍での“収入減”への対処法

新型コロナウイルス感染症により、多くの業種・企業が影響を受け、従業員の給与カットも少なからず行われています。収入減に立ち向かうには、家計の見直しが有効です。今回は、その方法をご紹介します。

1.「Needs (必要支出)」と「Wants (欲しい支出)」の違いを意識する

収入が減った分、どこかで支出を削減する必要があります。家計の見直しのポイントは、Needs 項目の保険、スマホ料金プランなどの「固定費」と、Wants 項目の菓子類や酒類などの「変動費」との違いを意識して、衝動買いを控えたり、購入を先送りするなど、削減可能なところから着手することです。

2. お金に優先順位を付け、備える貯蓄も大切に

お金には優先順位を付け、イ) 貯蓄、ロ) Needs、ハ) Wants の順が良いでしょう。ハ) ロ) イ) の順番でお金を残そうとしても、貯蓄はたまたま「残ったお金」となるので、貯められ

ない「使い込みしやすい」残し方となります。

家計収入が減少しているときは、将来のための貯蓄とともに、日常費では賄えない電化製品の故障等による「生活必需品の購入費用」や、冠婚葬祭等の「予期せぬ出来事への支払い」といった最低限必要なお金も、備える貯蓄として大切です。



3. 「残すお金」と「使うお金」を分けて管理する

コロナの接触感染防止の効用もあり、利用する方が増え始めたクレジットカード決済・QR コード決済などのキャッシュレス決済は、預金口座から引き落としになる場合が多く、一つの口座だけだと「貯まらない」という事態も想定されます。

銀行口座を「残す用」と「使う用」に

分けておけば、残高管理が容易・明確になるとともに、「使ったお金の見える化」で家計管理の意識が高まり、使い過ぎの防止に役立つでしょう。

4. コロナの悪影響を逆手に取る

感染症予防で「行動制限」が求められる中、家計支出のうち外食費・レジャー費・交通費・交際費が減少しているご家庭は多いと思います。その反面、食費や光熱費などの「巣ごもり消費」は増加しています。巣ごもり消費は、外食費などの支出の減少分を下回る増加に止めて、家計収支を改善させましょう。

いずれコロナも一段落する日が訪れるでしょう。そのときには、それまでの制約から解放され、使い過ぎる恐れもあるので注意しましょう。(ファイナンシャルプランナー 石村 衛)



石村氏の事務所 HP は
コチラから →→